

普段着のわたしたち

思う所があって『サザエさん』全巻大人買いをしてしまいました。マンガとして大変おもしろい作品であることは間違いないのですが、実は昭和20年代から40年代までの歴史資料でもあるのです。そういえば大学の授業でも使われていました。



現代日本を舞台としたマンガはその時代の生きた記録となるのです。

法然上人の生きられた平安時代末での生きた記録と言え「日記」がそれに当たると言えます。法然上人の最大の支援者であった関白九条兼実公の日記『玉葉』は大変貴重な資料となっています。

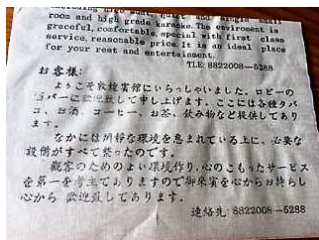
征阿

98年に敦煌ホテルに宿泊した際、部屋に置かれていた案内。

「…なかには閑静な環境を恵まれている上に、必要な設備が全て整ったのです。

観客のためのよい環境作り、心のこもったサービスを第一を考主でありますので御来賓を心からお待ちし心から歓迎いたします。」

誰かチェックする人はいなかったのだろうか。



20年前の中国の西の果て。日本語で書いてあるだけで十分か。

敦煌の話は本編に続きます。訶梨帝母

先日、あるお寺で120人程の「稚児行列」が実施されました。これをお手伝いしていた方の報告です。

ご近所をお練りして境内に戻り間もなく稚児の行列が急に停止、しばらく停滞して



しまいました。様子を見に行くと、参加者の小さな男の子が

本堂横の弁財天様がお祀りしてある小さな御堂の前の参道で、ちょこんと！正座をして丁重にお参りをしていたそうです。それが原因でした。多分、おじいちゃんから、「佛様の前では正座なさい」と日頃言われていた子のようにです。

俊徳丸

高齢者講習を受けていないと免許更新ができませんと書

かれたお知らせが届き、行ってきました。檀家さんから認知症検査があると聞いていま



したが、それは無し。どうやら後期高齢者向け講習までボケの発覚が遅れるようです。

今まで眼科医院で受けたことのない検査がありました。動体視力は「やや良い」でしたが、夜間視力は「ふつう」。

「もうやめよかな、夜の高速道路を120kmで走るのは・・・」

迷走坊

『友引町内会通信』はパソコンやタブレットでもお読みいただけます。検索は<http://www.daigoji-temple.jp/>「友引町内会通信」をクリックしてください。寺務局

『お寺 de クリスマス』

12月24日(日)に、私のお寺の本堂で『お寺 de クリスマス』という行事を計画しています。私が小学生だった頃は地元で公民館がなかったので子供会のクリスマス会をお寺の本堂で行っていましたが、今回は「宗教行事」として初めての試みです。もう何年も前からタイトルだけは決めてありましたが、行事の流れのイメージがなかなか出来ずにいました。このままでは、私の寿命の方が先に尽きてしまうと感じ、思い切って今月行うことにしました。

私のお寺がある美濃の国「笠松」は豊臣秀吉公が発せられた「隠れキリシタン弾圧」が約180年間行われ、その「傷跡」が残る町です。同町を流れる木曾川の河川敷には現在も処刑場跡が残っていますし、街中には牢屋跡に建てられたお寺や、牢屋から処刑場まで罪人を連れて行った路地も残っています。密かに十字架が忍ばせてある古い石灯籠も存在します。「隠キリシタン」と聞いて皆さんがイメージするのは、「熊本県天草地方」、「天草四郎」等、ということになると思います。確かに学校の教科書にもそう記載されていました。美濃の国に「隠れキリシタン」が多く存在していたことを知っている人は地元でも少数です。それは、岐阜城主であった織田信長公が多くのポルトガルからの宣教師に美濃での布教活動を許可したためだと言われています。美濃へ入った宣教師たちは、現在の岐阜市「加納宿」から中山道を東へ布教活動を行ったようです。当時の笠松付近も、総人口の25%~30%の人々がキリスト教に入信し

ていたというデータがあります。それゆえ街道の近辺には、隠れキリシタンが命がけで祈った「マリア観音像」、「マリア地蔵像」が存在します。また井戸の横に水神さんをお祀りし、その「水」の字を上手く変形させ石に彫り「十字架」に見立てたものもあります。ではなぜインパクトが九州地方により強いのかと言えば、美濃の隠れキリシタンは江戸時代に入り150年程で消滅したのに比べ、九州地方はその存在が根強く明治時代初期まで存在したからでしょう。

私が住職をするお寺にも「マリア観音像」が御三方(そのうちお一人が坐像)と、隠れキリシタン弾圧に180年程使用された「踏み絵」が残されています。踏み絵は四角い真鍮製で、赤子のキリストをマリアさまが抱っこしている場面がレリーフされており、長年多くの人々に踏まれたせいなのか、マリアさまのお顔は「のっぺらぼう」状態です。金属がすり減るくらい人が乗ったのであれば、それだけ多くの人の命が助かったということでは喜ばしいことなのですが… これを見ていると複雑な気持ちになります。なお、その「御調べ」は毎年2月に実施されたそうで、俳句の世界では「踏み絵」が2月の季語になっているそうです。これらが私のお寺に存在するのは、当時、天領地笠松を管理していた奉行の菩提寺だったせいでしょうか。没収したものの命がけで祈った像を破壊することもできず、お寺に納めたのかも知れません。また寺方も隠れキリシタンを異教徒扱いせず、「同じ信仰する者」として丁重に匿ったという資料も存在します。これも日本人の美しい「良さ」と言えるでしょう。

俊徳丸